

第 60 回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

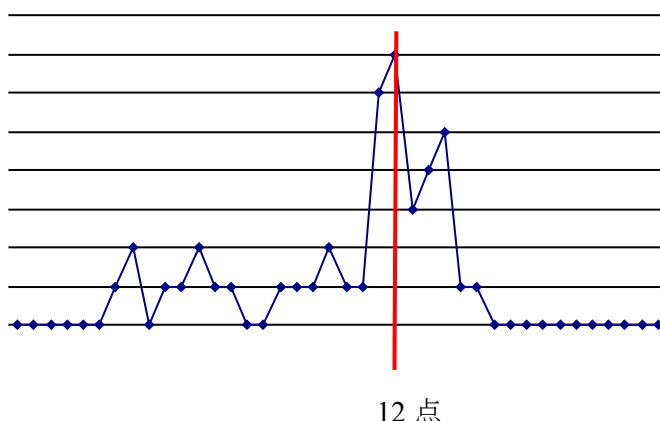
- | | | | | |
|---------|-----------|-------|-------|--------------|
| 1. 実施概要 | 2. 認定点と分布 | 3. 問題 | 4. 総評 | 5. 各問の短評と学習法 |
|---------|-----------|-------|-------|--------------|

1. 実施概要

検 定 日：2025 年 7 月 13 日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120 分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：50 名
受検人数：44 名
認定者数：22 名（認定率 50.0%）

2. 認定点

認定点：12 点（20 点満点）
最高点：14.5 点
最低点：3.5 点



3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。

1. 文化的景観
2. 完全性
3. 潜在的な OUV

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

国際社会全体の義務	危機遺産リスト
世界遺産基金	遺産を保有する国の同意

3 世界遺産活動は世界が協働し保護を行う取り組みであるが、近年では自国最優先の考え方も目立ち始めており、世界遺産活動にも影響を与えている。そうした風潮により世界遺産が抱える課題と考え得る解決策を、文化遺産と自然遺産両方の観点から、具体的な遺産の事例を挙げながら、1,200 字以内で論じなさい。

4. 総 評

今回も1で点数を落とす解答が多かった。特に「潜在的 OUV」の設問で、説明に必要な要素が足りていないために満点を取ることができていない解答がほとんどであった。マイスター試験の採点は基本的に加点方式であるため、特に1と2は説明する上で必要な要素が足りていないと高い点数を取ることが難しい。3は例年よりも解答の自由度の高い問題であったこともあり、考察の深さの差が如実に解答に現れていたように感じた。3で、自国最優先の考え方のために世界遺産登録が国家間の対立につながるが多くなっているという考察を、非常に具体的で納得できる文章にしていた解答が最高得点であった。しかし、その3の最高得点者は、1と2の解答が不十分であり全体の最高得点者にはならず、全体をバランスよく対策する重要性を再認識させられる結果となった。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「潜在的な OUV」では、暫定リスト記載の遺産に認められるだけでは不十分で、世界遺産委員会で正式に OUV が認められていない点などが書かれていなければならない。少ない文字数の中で、必要な要素を短く端的に説明する能力が求められる。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむことが重要である。**

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。前回と使用が求められるキーワードは同じであった。このキーワードは、ただ羅列してほしいという出題意図ではない。「危機遺産リストを作る」というだけでは、出題者の意図に沿った解答とは言えず、出題者がこのキーワードからどのような説明を求めているのかを考える必要がある。それを短い文章でまとめなければならぬため、準備してきた世界遺産条約の説明に、キーワードを用いた説明を柔軟に組み込む工夫が求められる。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えておき、問題に合わせて語句を組み合わせる**ようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：総評にも書いたように、今回の問題は解答の自由度が高い出題であった。そのためアメリカの関税引き上げ問題から、自国の価値観のみを優先する遺産登録による弊害までさまざまな解答があった。アメリカの多国間主義からの離脱を用いて論じるにしても、それが世界遺産の保護にどのような影響を与えているのか客観的な説明がなければ、説得力の乏しい解答になってしまう。世界遺産の新しい考え方として出てきた「記憶の場」は、自国の歴史観を優先する価値づけや歴史解釈に陥りやすい側面もあり、そうした点から具体的に論じたものは点数が高くなった。一方で今回は文化遺産と自然遺産の両方を論じる必要があったが、自然遺産の点では気候変動対策に対する国際協調の観点から論じるものが多く、その点ではあまり大きな差が出なかったように感じた。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。